

# 健康ちくしの

# 21 とは？

## 計画策定の背景



### ●高齢社会の到来

本市の平均寿命は、平成12年では男性は78.6歳へ、女性は84.4歳へと大きく伸びました。平均寿命が延びることは歓迎すべきことですが、一方では高齢化が徐々に進行し65歳以上の人口は平成12年では全人口の13.7%となりました。高齢化は今後更に進み、平成22年では16.3%、平成27年では18.3%に達すると予測されています。これにともない老夫婦世帯や独居老人の増加がなお一層深刻な社会問題になると予想されます。

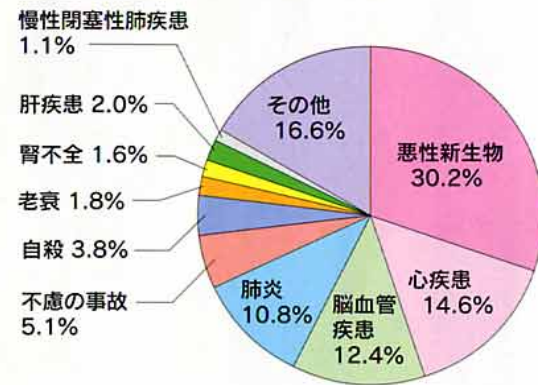


### ●生活習慣病と要支援・要介護者の増加

急速な高齢化とともに、疾病全体に占める3大生活習慣病（がん、心臓病、脳卒中）の割合が増加しています。平成14年の死因をみると、これらの3大生活習慣病が全死因の57.2%を占めています。また、65歳以上の要介護の原因を「国民生活基礎調査（平成13年）」でみると、脳血管疾患、高齢による衰弱、転倒骨折、認知症、関節疾患等、身体的・精神的・社会的活動を制限するような現象（老年症候群）が過半数を占めています。



### 死因別死亡割合（平成14年）



### ●市民の健康意識の高まりと健康ニーズの増大

健康に対する意識・考え方は個人個人によって異なります。「健康」とは単に病気が虚弱でない状態を意味するものではなく、より幅広い視野から人生や日常生活の質（QOL）の向上を求め、より積極的な考え方へと変わってきています。これは、できるだけ寝たきりや認知症（痴呆）とならず、いかに質の高い生活をおくるかが、共通した課題となってきていることを示しています。



### 「健康」とは（複数回答）



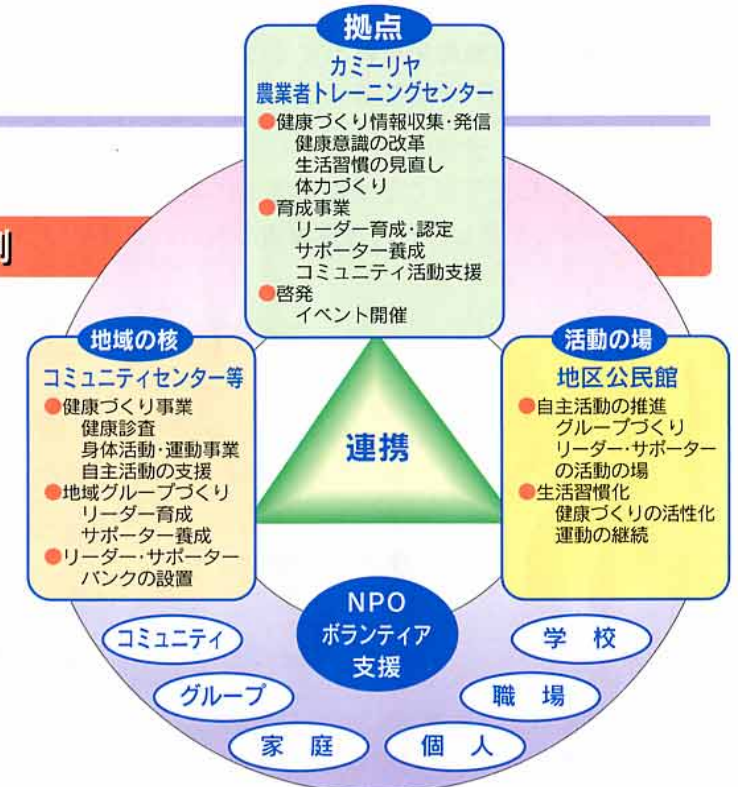
## 基本目標

本計画の基本目標は、「第四次筑紫野市総合計画」の基本目標の1つである「支えあう、いきいき・安心の地域づくり」の理念を踏まえるとともに、国が策定した「健康日本21」「健やか親子21」、福岡県が策定した「いきいき健康ふくおか21」の趣旨に沿って、市民と地域、行政が一体となって「健康づくり」を推進することを目指します。

## 計画の推進体制

### ●健康寿命の延伸のための推進体制

健康づくりを推進する「拠点」はカミリーヤ及び農業者トレーニングセンターとします。「拠点」では、健康づくりの情報収集・発信、健康意識の改革、育成事業、イベント開催など健康づくり事業全般を推進していく役割を果たします。



### ●健やか親子づくりのための推進体制

子育てを取り巻く社会環境は核家族化、少子高齢化、地域関係の希薄化、情報や物資の氾濫などで家庭だけでは健康な子どもの心身の育成が難しくなっています。子どもの成長・発達には深く保健・医療・福祉・教育の各分野及び地域の関わりで成り立つものであり皆で協力しあう社会全体の取り組みが必要です。



## 計画の期間

計画の期間は、平成17年度から平成22年度までの6年間を前期計画とし、平成23年度から平成27年度までの5年間を後期計画とする11年間とします。